

I-4 休暇中の船員の生活行動
(主として内航船員において)

目 次

A 調査の目的と方法, 有効資料 …… 41
 B 休暇中船員の生活時間の構成 …… 42
 C 休暇中船員の生活行動の分析 …… 51
 D 生活時間調査の総括と船員福祉 …… 55

A 調査の目的と方法, 有効資料

1. 調査の目的

今後の船員福祉のあり方を検討していくにあたっての基礎資料をうるための一環として、船員が休暇生活をどのように過ごしているかについて、生活時間、生活行動のうえから調査しようとしたものである。

2. 調査の方法

a 調査対象

昨年度の調査対象は、中核6社船員で1都3

県(東京, 千葉, 神奈川, 埼玉)居住者, および石川県羽咋郡富来町居住者であった。今年度は、それとの対応させるために、中核6社船員で阪神県(大阪, 兵庫)および瀬戸内海県(岡山, 広島, 山口, 徳島, 愛媛)居住者, そして内航労務協会加盟会社の全国的な居住者を、調査対象とした。なお、それらの調査対象船員は、有給休暇または代償休暇, あるいは陸上休暇, それらにひきつづく自宅待機の状態にある船員である。

b 調査の内容

昨年度の調査結果を参考にして、別途用意にした「A有給休暇についてのアンケート」および「B生活行動調査表」をもちいた。B表は、連続した7日間について、0時から24時まで、30分きざみで生活行動を家庭内については指定欄にしたがい、また家庭外については自由欄に記入してもらった。

c 調査表の配布と回収

昨年度と同様に、中核6社と内航労務協会の

第1表 調査表の配布・回収数

		(人, %)		
		配 布	回 収	回 収 率
中核6社(1)	阪 神 県	125	85	68.0
	内 海 県	125	88	70.4
	計	250	173	69.2
内 労 協	高 所 得 県(2)	120	68	55.7
	中 所 得 県	112	64	57.1
	低 所 得 県	168	75	44.6
	計	400	207	51.8

(1) 各社別員数：商船三井81人, ジャパン50人, 川崎汽船44人
 日本郵船34人, 昭和海運24人, 山下新日本17人。

(2) 後述本文中参照。

事務局およびその所属会社の担当者との協力をえて、各社の予備員名簿から対象者を抽出し、郵送法で配付、止め置き、郵送法により回収した。

d 調査時期

1973年11月1日～17日（なお、調査表の到着日や休暇発生時点の関係から、その前後にわたる資料もある）。

3. 有効資料

第1表のように、配布と回収をおこない、中核6社阪神県85人、同内海県88人、内航労務協会高所得県68人、中所得県64人、低所得県75人という有効資料をえた。なお、中核6社船員の回収率は昨年度を上廻っているが、内労協船員のそれはそれほどたかくはないが、石川県富来町よりは上廻っている。

なお、第1表の内労協船員の高所得県・中所得県・低所得県という区分は、いちおう他の調査対象が府県別区分となっているので、それに合わせるため、つぎのようにさだめた。経済企画庁『国民経済計算』29号（昭和45年）における「1人当り県民個人所得」を、3分位に分割した。なお、高所得県で、有効資料としての内労協船員が比較的多く居住する県は、神奈川県（17人）、静岡県（12人）、千葉県（9人）、福岡県（8人）、岡山県（7人）であり、中所得県は山口県（25人）、北海道（15人）、石川県（9人）、高知県（5人）であり、低所得県は長崎県（18人）、岩手、宮城、鹿児島県（各9人）、新潟県（8人）である。

B 休暇中船員の生活時間の構成
—内労協船員を中心として—

はじめに

今年度の調査対象は、中核6社の阪神県・内海県および内労協船員であるが、主として内労協船員を分析対象としていくこととする。

1. 居住地別（個人所得別、人口規模別）

個人所得別地域はすでにのべたように、内労協船員の賃金水準による区分ではなく、また都市居住者と農村居住者の区分でもない。したがって、内労協船員の居住地別比較としては個人所得別区分（府県別区分）だけでなく、人口規模別区分によってもしめさなければならぬ。

対象船員の個人所得別区分と人口規模別区分の対照表は、第2表のとおりである。

第2表 内労協船員の居住地別区分対照表

（単位：人）

	大都市	中都市	郡部	合計
高所得県	17	30	21	68
中所得県	3	27	34	64
低所得県	9	18	48	75
合計	29	75	103	207

注 大都市：県庁所在地

中都市：大都市以外の人口5万以上の都市

郡部：人口5万以下の小都市および町村

第3表は、個人所得別地域別生活時間である。第4表は、人口規模別地域別生活時間である。

それらについて、いくつかの特徴をみてみよう。

(1) 生理時間については、すでにみたように、内労協船員のすいみん時間が中核6社船員よりも多いが、そのことは人口規模別にみてもいえ

第3表 内航船員の個人所得別地域別生活時間(週)

(単位:時間,分)

個人別所得	高所得県			中所得県			低所得県		
	内	外	計	内	外	計	内	外	計
生 理	77.34	4.28	82.02	81.19	4.06	85.25	80.34	2.53	83.27
す い み ん	58.50	1.56	60.46	61.06	2.03	63.09	61.31	1.31	63.02
食事・身仕度	15.16		15.16	15.13		15.13	14.49		14.49
休息・ごろね	3.28		3.28	5.00		5.00	4.14		4.14
通院治療		2.32	2.32		2.03	2.03		1.22	1.22
家 事	10.08	2.17	12.25	9.25	1.01	10.26	11.42	2.01	13.43
子供の世話・相手	3.18	.35	3.53	3.06	.10	3.16	3.01	.42	3.43
家事雑事・用たし	4.02	1.07	5.19	2.56	.56	3.52	4.16	.40	4.56
家屋の普請	2.48	.35	3.23	3.23	.01	3.24	4.25	.39	5.04
仕 事	4.35	3.58	8.33	3.26	3.49	7.15	3.05	1.15	4.20
職業的仕事		.56	.56		1.44	1.44		.14	.14
内職的仕事	4.35	3.02	7.37	3.26	2.05	5.31	3.05	1.01	4.06
交 際	1.59	7.30	9.29	2.55	4.26	7.21	3.42	6.29	10.11
他家への手伝い		.47	.47		.40	.40		1.09	1.09
個人的つきあい	1.51	6.12	8.03	2.20	3.18	5.38	3.36	5.00	8.36
社会的つきあい	.08	.31	.39	.35	.28	1.03	.06	.20	.26
休養・教養	38.40	.06	38.46	39.30		39.30	40.20	.44	41.04
家庭内の雑談	5.56		5.56	6.48		6.48	6.28		6.28
テレビ・ラジオ	24.35		24.35	24.50		24.50	26.29		26.29
新聞・雑誌	5.04		5.04	4.26		4.26	3.43		3.43
読書・学習	3.05	.06	3.11	3.26		3.26	3.40	.44	4.24
趣味・娯楽	6.31	9.52	16.23	7.24	10.15	17.39	4.38	9.09	14.47
散 歩		.52	.52		.10	.10		.50	.50
見物・鑑賞		.16	.16		.24	.24		.17	.17
ス ポ ー ツ		1.20	1.20		1.52	1.52		1.59	1.59
勝負ごと	.51	1.49	2.40	1.58	1.43	3.41	.36	1.24	2.00
けいこ・趣味	1.03		1.03	1.25	.13	1.38	.54		.54
日曜大工・庭いじり	4.06		4.06	3.30		3.30	3.34		3.34
行楽・旅行		4.08	4.08		3.51	3.51		2.47	2.47
買物・外飲食		1.27	1.27		2.02	2.02		1.52	1.52
そ の 他	.31		.31	.31		.31	.34		.34
不 明	.05		.05						
合 計	139.40	28.19	168.00	144.09	23.50	168.00	145.18	22.41	168.00
正味家庭外時間		24.21			19.24			21.26	
総 数		68			64			75	

第4表 内航船員の人口規模別地域別生活時間(週)

(単位:時間,分)

人口規模別	大都市			中都市			郡部		
	内	外	計	内	外	計	内	外	計
生理	79.29	5.10	84.39	79.17	4.40	83.57	80.20	2.45	83.05
すいみん	59.57	2.12	62.09	60.02	1.58	62.00	61.02	1.37	62.39
食事・身仕度	16.17		16.17	14.52		14.52	14.56		14.56
休息・ごろね	3.15		3.15	4.23		4.23	4.22		4.22
通院治療		2.58	2.58		2.42	2.42		1.08	1.08
家事	10.06	2.19	12.25	10.30	2.09	12.39	10.36	1.29	12.05
子供の世話・相手	2.58	.39	3.37	3.25	.59	4.24	2.59	.07	3.06
家事雑事・用たし	3.28	1.28	4.56	3.50	.54	4.44	3.50	.44	4.34
家屋の普請	3.40	.12	3.57	3.15	.16	3.31	3.47	.38	4.25
仕事	4.28	1.53	6.21	2.35	2.16	4.51	4.17	3.43	8.00
職業的工作					1.06	1.06		1.03	1.03
内職的工作	4.28	1.53	6.21	2.35	1.10	3.45	4.18	2.40	6.57
交際	2.32	3.43	6.15	2.10	5.10	7.20	3.32	7.38	11.10
他家への手伝い					.52	.52		1.09	1.09
個人的つきあい	2.20	3.43	6.03	2.03	3.58	6.01	3.09	5.51	9.00
社会的つきあい	.12		.12	.07	.20	.27	.23	.38	1.01
休養・教養	38.45	.14	38.59	42.25		42.25	37.37	.32	38.09
家庭内の雑談	7.04		7.04	5.56		5.56	6.33		6.33
テレビ・ラジオ	24.52		24.52	26.48		26.48	24.25		24.25
新聞・雑誌	4.53		4.53	5.13		5.13	3.37		3.37
読書・学習	1.56	.14	2.10	4.28		4.28	3.02	.32	3.34
趣味・娯楽	7.17	11.50	19.07	6.08	10.18	16.26	6.28	8.47	15.15
散歩		2.07	2.07		.32	.32		.17	.17
見物・鑑賞					.43	.43		.07	.07
スポーツ		.53	.53		1.01	1.01		2.31	2.31
勝負ごと	1.15	.40	1.55	1.17	2.18	3.35	.56	1.25	2.21
けいこ・趣味	.30		.30	.46		.46	1.31	.08	1.39
日曜大工・庭いじり	5.30		5.30	3.27		3.27	3.25		3.25
行楽・旅行		5.31	5.31		4.08	4.08		2.38	2.38
買物・外飲食		2.39	2.39		1.36	1.36		1.41	1.41
その他	.02		.02	.38		.38	.36		.36
不明	.09			.03					
合計	142.44	25.12	168.00	143.22	24.38	168.00	143.01	24.58	168.00
正味家庭外時間		23.19			22.22			21.15	
総数		28			75			102	

る。すなわち、中核6社1都3県船員のすいみん時間週60時間09分であるのに対し、内労協大都市船員の週62時間09分となっている。

(2) 家事時間については、内労協船員が中核6社船員よりも比較的少ないことのはか、それほどの特徴はない。

(3) 仕事時間については、第8表にみるように内労協船員は中核6社船員よりも多いことのはか、高所得県・大都市、低所得県・郡部が、中所得県・中都市よりも多くなっていることが、一つの特徴である。しかも、仕事時間がきわめて多い石川県富来町船員の仕事が家庭外でおこなわれているのに対し、内労協船員の場合は家庭内でおこなわれていることが重要な特徴となっている。内労協船員の仕事時間については、別途に詳しく分析してある。

(4) 交際時間については、個人所得別ではそれほど特徴がみられなかったが、人口規模別にみると、交際時間のすべての中分類時間において、郡部船員は大都市・中都市船員よりも多くなっている。内労協の郡部船員の交際時間は週11時間10分であるが、それは石川県富来町船員の週13時間16分にかなりちかい。すなわち、農村居住船員はそれが所属する企業規模にかかわらず、その居住地域の文化に、その生活を規制されているといえるようである。他方、内労協の大都市船員の交際時間は週6時間15分であるが、それにたいし中核6社船員は週11時間26分であって、そのひらきはきわめて大きい。それは、一つの問題点である。

(5) 休養・教養時間については、中都市船員は週42時間25分であって、大都市・郡部船員にくらべて、週約4時間ほど多い。それは、中都市船員のテレビ・ラジオ時間、読書・学習

時間の多さにもとづく。そうした多さは、中都市船員の趣味・娯楽時間が大都市船員よりも約3時間少なく、また中都市船員の仕事時間は郡部船員よりも約4時間少ないことに、かなり影響しているようである。

(6) 趣味・娯楽時間については、大都市船員のそれが週19時間07分と多く、中都市・郡部船員よりも約3～4時間ほど多い。内労協船員の趣味・娯楽時間は、中核6社1都3県船員の週19時間30分とほぼちかい。農村居住船員の交際時間が企業規模をこえて同一水準であったように、大都市居住船員の趣味・娯楽時間もまたその居住地域の文化に規定されて同一水準になっているのではなからうか。

内労協大都市船員と中核6社1都3県船員とでは、趣味・娯楽時間の構成はかならずしも同一ではない。内労協大都市船員が後者よりも多い時間は、散歩、日曜大工、庭いじり時間であり、中核6社1都3県が前者よりも多い時間はスポーツ、けいこ・趣味、買物・外飲食となっている。こうしたことは、内労協船員と中核6社船員との一般的な比較についてもいえそうである。しかし、すでにみたように、内労協船員は中核6社船員にくらべて、趣味・娯楽時間がけっして少ないというわけではない。

内労協船員のなかにあっては、大都市、中都市、郡部にかけて、家庭外の趣味・娯楽時間が傾向的に少なくなっているのが、一つの特徴である。また、大都市船員が他にくらべて多い趣味・娯楽時間の中分類は、散歩、日曜大工、庭いじり、行楽・旅行、買物・外飲食時間であり、いわば都市文化を反映している。他方、郡部船員が他よりも多いのは、スポーツ、けいこ・趣味時間となっている。特異なのは、中都市船員の

勝負ごと時間であり、それはどの対象船員よりも多い。内労協郡部船員は、石川県富来町船員と同様に農村居住船員であるが、後者が週8時間55分(日1時間16分)にあるのに、前者は週15時間15分(日2時間11分)と約2倍も多いのである。それは、内労協船員が趣味・娯楽時間のすべての中分類時間について、石川県富来町船員をうわまわっているからである。要するに、内労協船員の居住地別生活時間は、個人所得別ではめだった特徴をみいだすことはできないが、人口規模別からみると、大都市船員は都市文化に、また郡部船員は農村文化に規定された生活時間の構成となっているという特徴がみられる。その差は、前者における趣味・娯楽時間の多さ、後者における交際時間の多さとしてあらわれている。しかし、内労協大都市船員の仕事時間の多さは、中核6社の1都3県船員とおおきくことになっているし、また内労協郡部船員の趣味・娯楽時間の多さは、石川県富来町ともおおきくことになっている。内労協中都市船員は、テレビ・ラジオ、勝負事時間の多さと、仕事時間の少なさをしめし中間的な位置をしめている。

そこであえて名づけるとすれば、内労協大都市船員は「レジャー行動・余暇副業型」、中都市船員は「テレビ人間・遊び型」、郡部船員は「稼ぎ仕事・レジャー行動型」である。

2. 家族型別

内労協船員の家族型別生活時間は、第5表のとおりである。

(1) 核 家 族

内労協の核家族船員が大家族船員よりも多い生活時間は、家事時間のすべての時間、勝負ごと時間、行楽・旅行時間である。中核6社1都

3県船員のばあいは、子供の世話・相手時間、テレビ・ラジオ時間、スポーツ時間、日曜大工・庭いじり時間について、核家族船員が多くなっている。すなわち、内労協船員と中核6社船員とでは、その核家族型と大家族型の対比の関係はことになっている。

内労協の核家族船員が独身船員よりも多い生活時間は、通院治療時間、家事時間、他家への手伝い時間、日曜大工・庭いじり時間、行楽・旅行時間である。中核6社1都3県船員のばあいは、通院治療時間、家事時間、休養・教養時間、日曜大工・庭いじり時間について、核家族船員が多い。内労協船員、中核6社1都3県船員とも、ほぼ同じような対比の関係にたっているが、あとでのべるように、内労協船員の行楽・旅行時間が少ないことが一つの相異である。

(2) 大家族 船 員

内労協の大家族船員が核家族船員よりも多い生活時間は、すいみん時間、仕事時間、個人的つきあい時間である。中核6社1都3県船員のばあい、社会的つきあい時間、行楽・旅行時間、買物・外飲食時間となっており、すでにみたように、内労協船員と中核6社船員とでは、その核家族型と大家族型の対比の関係はことになっている。

内労協の大家族船員が独身船員よりも多い生活時間は、家事時間、内職の仕事、新聞・雑誌時間、日曜大工・庭いじり時間である。中核6社1都3県のばあいは、家事時間、他家への手伝い時間、社会的つきあい時間、家庭内雑談時間、新聞・雑誌時間、日曜大工・庭いじり時間が多い。内労協の大家族船員の内職的時間、中核6社のその交際時間が多いことのほかは、かなりにかよった対比となっている。

第5表 内航船員の家族型別生活時間(週)

(単位:時間,分)

家族型別	核 家 族			大 家 族			独 身 者		
	内	外	計	内	外	計	内	外	計
生 理	79.16	4.23	83.39	80.51	3.45	84.36	79.57	2.18	82.15
す い み ん	58.39	1.53	60.32	62.23	2.04	64.27	62.55	1.22	64.17
食事・身仕度	15.56		15.56	15.01		15.01	13.01		13.01
休息・ごろね	4.41		4.41	3.27		3.27	4.01		4.01
通院治療		2.30	2.30		1.41	1.41		.56	.56
家 事	12.37	2.06	14.43	9.38	1.37	11.15	6.03	1.29	7.32
子供の世話・相手	3.53	.29	4.22	2.31	.57	3.28	2.00		2.00
家事雑事・用たし	5.00	.57	5.57	3.08	.40	3.48	1.27	1.04	2.31
家屋の普請	3.44	.40	4.24	3.59		3.59	2.36	.25	3.01
仕 事	2.50	1.58	4.48	4.08	4.41	8.49	5.18	3.12	8.30
職業的仕事		1.04	1.04					1.44	1.44
内職的仕事	2.50	.54	3.44	4.08	4.41	8.49	5.18	1.28	6.46
交 際	2.33	6.07	8.40	3.44	6.43	10.27	2.44	5.40	8.24
他家への手伝い		1.20	1.20		.28	.28		.16	.16
個人的つきあい	2.25	4.12	6.37	3.04	5.49	8.53	2.39	5.22	8.01
社会的つきあい	.08	.35	.43	.40	.26	1.06	.05	.02	.07
休養・教養	39.01	.03	39.04	38.46		38.46	41.48	1.18	43.06
家庭内の雑談	6.47		6.47	6.36		6.36	5.08		5.08
テレビ・ラジオ	24.51		24.51	23.43		23.43	28.42		28.42
新聞・雑誌	4.39		4.39	4.34		4.34	3.27		3.27
読書・学習	2.44	.03	2.47	3.53		3.53	4.31	1.18	5.49
趣味・娯楽	6.51	9.55	16.46	7.12	6.39	13.51	4.48	13.06	17.54
散 歩		.49	.49		.25	.25		.26	.26
見物・鑑賞		.14	.14		.08	.08		.45	.45
ス ポ ー ツ		1.36	1.36		1.48	1.48		2.00	2.00
勝負ごと	1.18	1.41	2.59	.34	.01	.35	1.18	3.33	4.51
けいこ・趣味	.52	.00	.52	.47		.47	2.08	.17	2.25
日曜大工・庭へじり	4.24		4.24	4.49		4.49	.34		.34
行楽・旅行		4.06	4.06		3.00	3.00		2.52	2.52
買物・外飲食		1.29	1.29		1.17	1.17		3.13	3.13
そ の 他	.17		.17	.49		.49	.48		.48
不 明	.03		.03	.13		.13			
合 計	143.19	24.40	168.00	144.29	23.30	168.00	140.47	27.12	168.00
正味家庭外時間		22.42			18.49			24.00	
総 数		75			89			43	

(3) 独身船員

内労協の独身船員が核家族船員よりも多い生活時間は、すいみん時間、仕事時間、個人的つきあい時間、テレビ・ラジオ時間、読書・学習時間、スポーツ時間、勝負ごと時間、けいこ・趣味時間、買物・外飲食時間である。中核6社1都3県船員のばあいは、すいみん時間、個人的つきあい時間、見物・鑑賞時間、勝負ごと時間、行楽・旅行時間、買物・外飲食時間が多い。中核6社船員の行楽・旅行時間がひじょうに多いことのはかは、内労協船員においても、独身船員と核家族船員との対比関係は、ほぼにかよっているといつてよい。

内労協の独身船員が大家族船員よりも多い生活時間は、テレビ・ラジオ時間、読書・学習時間、勝負ごと時間、買物・外飲食時間である。

中核6社船員のばあひ、すいみん時間、個人的つきあい時間、見物・鑑賞時間、勝負ごと時間、行楽・旅行時間、買物・外飲食時間である。

内労協、中核6社とも、その対比関係はかなりにかよっている。

(4) 他の対象船員の比較

内労協核家族船員は中核6社1都3県のそれにくらべて、仕事時間、テレビ・ラジオ時間、勝負ごと時間が多く、家事雑事・用たし時間、交際時間、読書・学習時間、スポーツ時間、買物・外飲食時間が少ない。

内労協大家族船員は同じく、すいみん時間、子供の世話・相手時間、仕事時間、テレビ・ラジオ時間、日曜大工・庭いじり時間が多く、家事雑事・用たし時間、交際時間、読書・学習時間、スポーツ、日曜大工・庭いじりをのぞくほとんどの趣味・娯楽時間が少ない。

内労協の独身者は、子供の世話・相手時間、

仕事時間、テレビ・ラジオ時間、勝負ごと時間、けいこ・趣味時間が多く、交際時間、勝負ごと、けいこ・趣味をのぞくほとんどの趣味・娯楽時間が少ない。

正味家庭外時間についてみると、内労協船員は中核6社1都3県船員より相当少ない。石川県富来町船員とでは、内労協船員は核家族をのぞいて、それより少ない。

独身者にかざれば、中核6社1都3県船員週51時間55分にたいして、石川県富来町船員週25時間02分、内労協船員週24時間00分というように、大きなひらきがある。それは、中核6社1都3県船員の行楽・旅行時間が週14時間57分にもほっているのに内労協独身船員が週2時間52分ときわめて少ないことにある。

内労協の核家族船員は、中核6社船員にくらべ、いろいろの生活行動のうえで、それほど大きなひらきをしめしていない。そのことは、核家族という生活様式があるかぎり、生活行動に、それほどちがいが生じえないからであろう。そのちがいをあえていえば、内労協船員は仕事時間が多いこと、中核6社船員は交際時間が多いことにもとめられる。

内労協の大家族船員は、中核6社船員にくらべ、仕事時間週8時間49分と多いことが、決定的なちがいである。

内労協の独身船員は、中核6社船員にくらべ、生活様式におおきなちがひがあることが重要である。また、内労協船員は、中核6社1都3県や石川県富来町船員の家族型のあいだでみるほどの、生活行動のひらきはない。

そのほか、すでにみたように、内労協の家族型による生活時間の構成は、中核6社船員(石

川島船員をふくめてもおなじ)にみられるほどのちがいをしめていない。

3. 調査時点別

内労協船員の休暇日数は、制度のちがいによって中核6社船員とちがってばらつきが大きくかつかなり短い。したがって、29日以下の休暇日数の船員にとって、その休暇生活に時期的な相異があるかどうかには、疑問がある。しかし、中核6社船員と同様にかなり長い休暇日数の船員もいるので、昨年度と同様に対象船員の調査時点が、1～3週目のとき前期、4～6週目のとき中期、7週以上を後期として分析してみよう。その結果は、第6表のとおりである。

(1) 生理時間

すいみん時間は、後期においてかなり多くなっている。休息・ごろね時間は、前期から後期にかけて減少している。なお、通院治療時間が中期において、かなり集中していることが、注目される。

(2) 家事時間

その全体時間が、前期から後期にかけて増加しているが、それは中核6社船員とぎゃくの傾向である。それは、後期の家屋の普請時間が、他にくらべて多いことによる。

(3) 仕事時間

その全体時間が、前期から後期にかけて、傾向的に増加する。そのなかでも、前・中期の内職の仕事が週4時間程度であったが、後期では週10時間30分となる。しかも、その増加は主として、家庭内の内職の仕事によっている。

(4) 交際時間

他人への手伝い時間が、中期に多いが、それは中核6社1都3県船員と同じ傾向である。休暇開始直後の前期とはことになって、中期におけ

る時間的な余裕をしめそう。個人的つきあい時間は、前期から後期にかけて減少していく。

(5) 休養・教養時間

後期のテレビ・ラジオ時間が、他にくらべていちじるしく減少するが、それは仕事時間による影響であろう。

(6) 趣味・娯楽時間

その中期・後期の全体時間は約週14時間であるが、前期のそれは週18時間17分と約4時間も多い。しかし、この内労協船員の前期の時間量は、中核6社1都3県船員の週22時間21分よりも、約4時間も少ないし、その中期・後期にちがいが、けいこ・趣味時間が中期に少いが、そのことはさきにも述べた中期に時間的余裕があることを否定するかのようである。日曜大工・庭いじり時間は、後期において若干のびている。行楽・旅行時間および買物・外飲食時間は傾向的に低下しているが、そのことは中核6社1都3県船員と同じ傾向である。

(7) 正味家庭外時間

それは、前期から後期にかけて、約週7時間づつ減少している。この傾向は、どの対象船員においてもいちおうみられるが、内労協の後期の週15時間56分は1都3県および石川県富来町船員の後期よりも、かなり少ない。

内労協船員は、中核6社1都3県船員ほどでないとしても、前期において積極的な余暇行動をいちおう集中しておこなっているようにみえる。しかし、内労協船員が中核6社1都3県船員にくらべて、すいみん時間、テレビ・ラジオ時間が多く、趣味・娯楽時間が少ないことは、内労協船員のなかにはその比較的短い休暇日数を反映して、休養型とレジャー型とに大きくわかれているかのようにみえる。そこではたし

第 6 表 内航船員の調査時点別生活時間

(単位：時間，分)

調査時点	前 期			中 期			後 期		
	内	外	計	内	外	計	内	外	計
家庭内・外									
生 理	79.06	4.16	83.22	78.30	4.49	83.19	84.10	1.02	85.12
す い み ん	59.33	2.36	62.09	59.29	1.24	60.53	65.06	.17	65.23
食事・身仕度	14.49		14.49	15.19		15.19	15.46		15.46
休息・ごろね	4.44		4.44	3.42		3.42	3.18		3.18
通院治療		1.40	1.40		3.25	3.25		.45	.45
家 事	9.39	1.33	11.12	11.19	1.35	12.54	11.16	2.36	13.52
子供の世話・相手	2.28	.24	2.52	3.24	.59	4.23	3.48	.03	3.56
家事雑事・用たし	3.46	.49	4.35	4.18	.36	4.54	3.17	.58	4.15
家屋の普請	3.25	.20	3.45	3.37		3.37	4.11	1.30	5.41
仕 事	3.14	1.16	4.30	2.53	3.37	6.30	4.44	6.11	10.55
職業的仕事		.28	.28		2.12	2.12		.25	.25
内職的仕事	3.14	.48	4.02	2.53	1.25	4.18	4.44	5.46	10.30
交 際	3.00	6.23	9.23	3.16	6.37	9.53	2.20	5.06	7.26
他家への手伝い		.20	.20		2.16	2.16		.30	.30
個人的つきあい	2.48	5.31	8.19	2.45	4.09	6.54	2.15	4.05	6.20
社会的つきあい	.12	.32	.44	.31	.12	.43	.05	.31	.36
休養・教養	40.13	.34	40.52	40.42		40.42	36.07		36.07
家庭内の雑談	6.12		6.12	6.28		6.28	7.01		7.01
テレビ・ラジオ	26.22		26.22	26.03		26.03	21.12		21.12
新聞・雑誌	4.27		4.27	4.27		4.27	4.17		4.17
読書・学習	3.17	.34	3.51	3.44		3.44	3.37		3.37
趣味・娯楽	7.06	11.11	18.17	5.21	9.04	14.25	6.58	7.03	14.01
散 歩		.56	.56		.19	.19		.18	.18
見物・鑑賞		.11	.11		.22	.22		.40	.40
ス ポ ー ツ		1.47	1.47		1.54	1.54		1.33	1.33
勝負ごと	1.14	1.40	2.54	.54	1.37	2.31	1.09	1.40	2.49
けいこ・趣味	1.19	.07	1.26	.36		.36	1.23		1.23
日曜大工・庭いじり	3.55		3.55	3.16		3.16	4.14		4.14
行楽・旅行		4.35	4.35		3.04	3.04		1.36	1.36
買物・外飲食		1.55	1.55		1.48	1.48		1.16	1.16
そ の 他	.38		.38	.35		.35	.12		.12
不 明	.06		.06				.10		.10
合 計	142.38	25.21	168.00	142.10	25.49	86.00	145.52	22.07	168.00
正味家庭外時間		24.05			22.12			15.56	
総 数		110			57			36	

て、どの程度の休暇日数があれば、休養とともにレジャーをおこなうかが、いまあらためてとわれなければならない。

C 休暇中船員の生活行動の分析

1. 居住地別にみた余暇活動への参加の実態とその内容

余暇活動とは他者から拘束されない本人の主體的意志にもとづく生活行動であるから、船員の場合、長期の休暇全体が余暇的であるともいえる。もう少し狭いとらえ方をすれば船員の場合、生活時間における「心理的必需」時間を除く生活時間が余暇時間となる。さらにそのうちでも「家事」や「仕事」等の行動は、いわば、他者の要請、生活維持のための意味合いが強く、これも除外した生活行動をここでは余暇活動と考察してみたい。ただし「交際」のうち“他家への手伝い”や“社会的つきあい”も多分に他者の要請によるところが多くこれも除外した。結局、ここでいう余暇活動とは“個人的つきあい”、「趣味・娯楽」、「休養・教養」にしぼって検討してみたい。

生活時間における量的意味合いはすでにみてきたが、ここではそれぞれの余暇活動への参加の実態や参加者のそれに費された時間という観点から、余暇活動のもつ意味合いを検討してみよう。

船員の居住地を大雑把に分類すると、大都市、中都市、郡部に分けることができる。ここでは、大都市型の典型として、1都3県居住者（外航）を、中小都市型として、内航船員全体を、また、郡部型の代表として石川県富来町居住者を対応させることができる。

休暇中の生活は、すでにみてきたようにいろいろな個人的属性によって影響されるのであるが、ここでは上にあげた大都市型、中小都市型、郡部型という地域環境と余暇活動の関連を、参加率と消費時間という観点から検討してみよう。

第7表は、外航船員の居住地別、内航船員全体、石川県富来町居住者についての全生活行動に対する参加率とその消費時間について整理したものである。このうち外航船員の1都3県居住者、内航船員全体、石川県富来町居住者の3グループをとりだし、それぞれ大都市型、中都市型、郡部型として、これらの余暇活動を参加率と消費時間の関連から整理したものが第1図である。

すでに前項の内航船員の余暇活動のところでみたように、余暇活動は参加率からみるとおおよそ高、中、低と3つのグループに分かれる。

o かなり参加率の高い余暇活動

(参加率85%以上)

ラジオ・テレビ

家庭内雑談

新聞・雑誌

o 2人に1人は参加するような余暇活動

(参加率50%前後)

個人的つきあい(内、外)

読書・学習

庭いじり・日曜大工

買物・外飲食

o 5人に1人か2人が参加するような余暇活動

(参加率30%以下)

趣味・けいこ

旅行・行楽

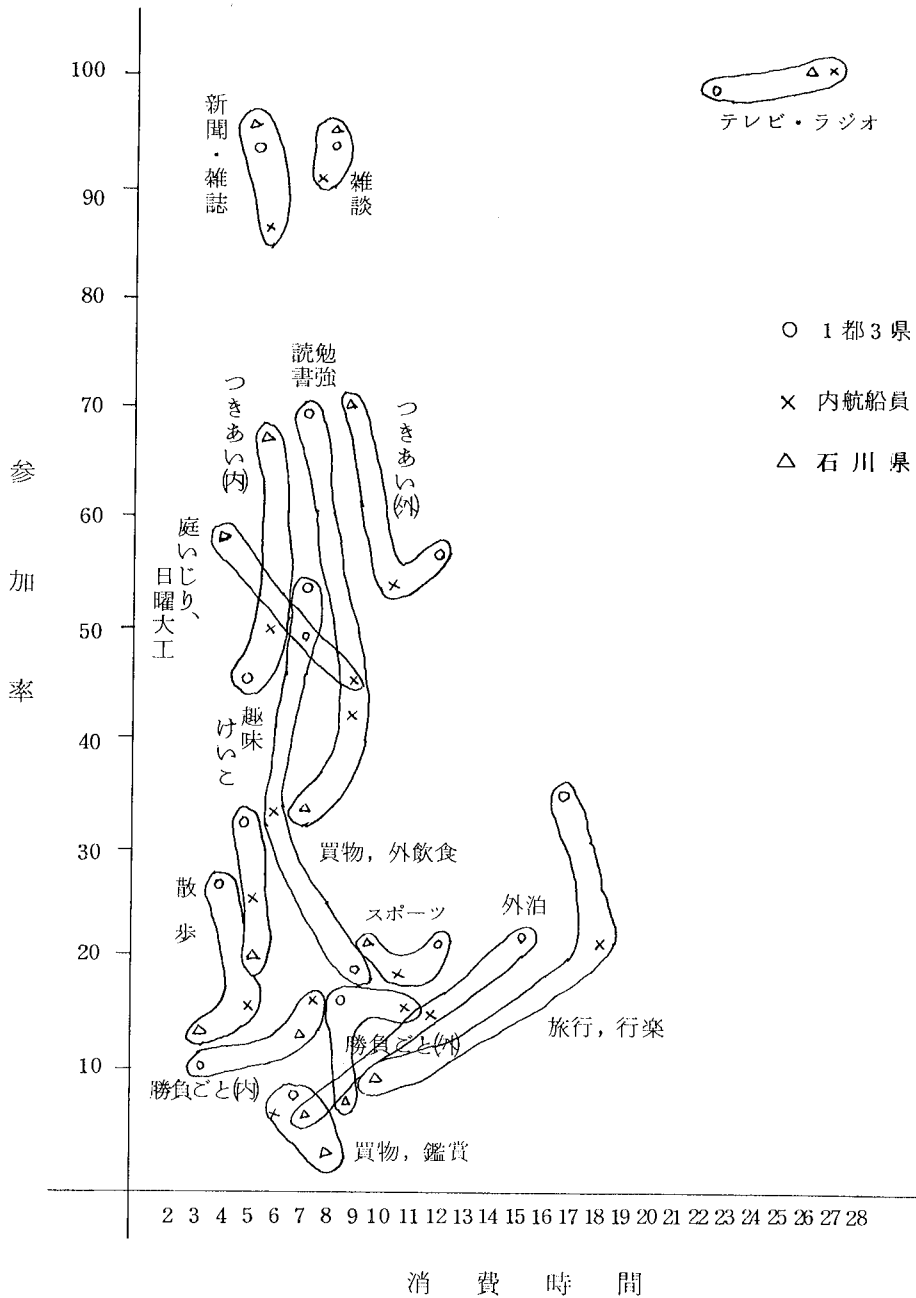
スポーツ

散歩

第7表 居住地別，生活行動における参加率と消費時間

単位：参加率 %
：消費時間 時間，分

生活行動	1都3県 参加率(消費時間)	阪神 参加率(消費時間)	内海 参加率(消費時間)	石川 参加率(消費時間)	内航全体 参加率(消費時間)		
すいみん	1000(5600)	1000(5718)	1000(6015)	1000(6106)	1000(6012)		
生外泊	225(1439)	259(1221)	170(603)	63(624)	169(1045)		
食事・身仕度	1000(1548)	1000(1612)	1000(1609)	1000(1542)	1000(1500)		
理休息・ごろね	739(506)	835(512)	785(445)	730(433)	792(518)		
通院治療	188(636)	212(409)	136(421)	365(618)	242(806)		
家事	子供の世話・相手	内	551(612)	612(548)	455(636)	508(459)	430(718)
		外	116(209)	153(309)	102(233)	143(430)	87(551)
	家事雑事・用たし	内	870(627)	859(539)	773(542)	810(539)	681(533)
		外	551(406)	612(415)	432(251)	365(315)	300(300)
家屋の普請	内	406(745)	376(754)	511(1000)	508(718)	420(827)	
	外	—	35(2221)	68(851)	—	39(1130)	
仕事	職業的仕事	239(751)	176(1142)	68(1939)	32(445)	63(1352)	
	内職的仕事	内	36(712)	188(409)	318(903)	32(1030)	330(1103)
		外	22(1251)	12(5000)	125(1609)	508(1700)	87(2303)
交際	他家への手伝い	65(1318)	24(1645)	45(524)	238(939)	68(1306)	
	個人的つきあい	内	457(433)	400(257)	455(448)	667(515)	493(521)
		外	572(1136)	424(848)	545(712)	714(803)	536(903)
	社会的つきあい	内	—	35(440)	91(609)	32(500)	53(593)
外		196(812)	118(754)	80(548)	333(430)	68(627)	
休養	家庭内雑談	935(748)	953(739)	966(727)	952(735)	908(730)	
	テレビ・ラジオ	993(2106)	976(247)	1000(2327)	1000(2543)	995(2521)	
	新聞・雑誌	935(448)	953(706)	966(506)	952(427)	860(506)	
	読書，学習	688(651)	600(412)	523(512)	333(606)	415(809)	
趣味・娯楽	散歩	261(339)	153(236)	136(348)	127(245)	145(424)	
	見物・鑑賞	65(627)	94(430)	68(400)	16(730)	58(533)	
	スポーツ	210(1106)	329(900)	284(1106)	206(839)	179(942)	
	勝負ごと	内	116(248)	165(230)	170(651)	127(627)	159(657)
		外	167(751)	141(624)	114(800)	63(754)	159(1015)
	趣味・けいこ	319(424)	235(400)	273(336)	190(439)	237(442)	
	庭へじり・日曜大工	486(633)	494(633)	750(615)	587(343)	459(806)	
	旅行・行楽	341(1600)	306(1745)	284(706)	90(812)	208(1706)	
	買物・外飲食	529(621)	388(457)	432(439)	195(845)	324(521)	
	その他	152(324)	141(224)	227(233)	79(118)	145(—)	
調査対象(人)	138	83	86	63	197		



第2図 居住地別，余暇活動への参加率と消費時間の関係を示す図

勝負ごと（内，外）

見物・鑑賞

(1) 参加率が高い余暇活動

“テレビ・ラジオ”に対しては100%の参加率を示しているの、消費時間が問題となってくる。大都市型は中小都市、郡部型に比べ4時間以上少ない。

“新聞・雑誌”への参加率は同じ程度であるが、消費時間では“雑談”等の方が多い。また、両活動に対する参加率からみると、内航船員→1都3県→石川県富来町の順に参加率が高くなるが、偶然であろうか。

総じてこれら参加率の高い余暇活動はごく日常生活行動であることは当然であろう。また居住地の地域環境ともあまり関連がないようである。

(2) 中位の参加率をもつ余暇活動

“個人的つきあい”は家庭の内外を問わず、圧倒的に郡部型の石川県富来町に参加率が高い。しかし消費時間でみると、家庭外のつきあいでは逆に石川県富来町が最も少ない。これはつきあいの行動領域に影響されていると考えられる。

“読書・学習”では1都3県が著しく参加率が高く、内航船員、石川県富来町はかなり低くなっている。これは1都3県居住者の個人的属性（外航の職員）によるものであろう。

“庭いじり、日曜大工”は参加率と消費時間が逆の関係、つまり参加率が高いほど消費時間が少ないという関係にある。石川県富来町は参加率では最も高いが、その所用時間は少なく、おそらく継続的に発生する余暇活動であろう。一方、内航船員の場合、参加率こそ少ないが、参加者は毎日これにかかわるといった連続性が認められる。“庭いじり・日曜大工”といった

余暇活動は持家を中心として発生する活動であるからこの結果だけではなんともいえないだろう。

“買物・外飲食”は参加率において、かなりのひらきがある。大都市型は53%、中小都市では32%、郡部では20%と、都市型の余暇活動の代表と考えられる。郡部ほど参加率が低いということは、生活様式、生活慣行の差によることは勿論であるが、まとまった買物となると、富来町の場合、かなりの距離を移動せざるを得なく、都市に比べ、時間がかかり、気軽に参加できないというハンデキャップがある。

(3) 低い参加率の余暇活動

“旅行・行楽”は対象別にかなりの参加率、消費時間ともに差が生じている。参加率では大都市は34%、中小都市の内航船員は21%、郡部の富来町は9%と大きなひらきがある。おそらくこの差は、生活における“旅行・行楽”のウエイトによるものであり、都市ほどこのウエイトが高くなることは当然であろう。つまり富来町のように、地域そのものが旅行・行楽の対象の地であるならば、そのニーズも小さく、結果的には参加率、消費時間も小さくなると考えられる。“外泊”は余暇活動ではないが、旅行に付随するものであり、この結果をみても“旅行・行楽”は都市型の代表的余暇活動といえよう。

“趣味・けいこ”と“散歩”は地域性からみて同じようなパターンを示している。これらの活動は消費時間には大きな差はないが、参加率では、大都市が相対的に高く、郡部で低い。中小都市はその中間にあるが、どちらかといえば、郡部にちかい傾向である。“趣味・けいこ”“散歩”なども都市型の余暇活動といえよう。

“スポーツ”は、都市型の代表的余暇活動と一般に考えられているが、参加率からみるかぎり、必ずしもそうとはいえない。参加率は20%前後で対象別に差はなく、むしろ消費時間で若干の差があらわれている。郡部の富来町で参加率が相対的に高いのは、“つり”がかなり影響していると考えられ、いわゆる都市のスポーツとは内容的には異なる。

“勝負ごと”は家庭の内と外で対象パターンがやや異なるが、参加率、消費時間からみて、これは中小都市つまり内航船員のかかなり特徴的余暇活動といえそうである。家庭内勝負ごととは大都市が参加率、消費時間ともに小さく、家庭外の勝負ごとでは、郡部の富来町居住者は参加率において相対的にかなり低い。これらの結果は、家庭内の勝負ごとの中心が麻雀であり、外部の勝負ごとでは、パチンコ、公営ギャンブルであるところから、おおよその説明がつきうる。

“見物・鑑賞”は参加率からみると5.6%とわずかであるが、時間的には6時間前後と意外に多い。音楽鑑賞や映画などがこの活動の中心であるので、地域差というよりも年代差がより影響する余暇活動である。将来的には一般的動向と一致してよりウエイトのある余暇活動となっていくと考えられる。

以上簡単に各余暇活動への参加を中心に地域特性との関連でながめてきたが、全体的には次のような傾向とまとめを指摘することができよう。

(1) ごく大雑把にみて、各余暇活動への参加率、その消費時間ともに大都市居住者と富来町居住者の中間に中小都市居住者の内航船員が位置するといった傾向が目立つ。

(2) このことは地域環境が余暇活動にかなりの影響を与えていることを意味し、同時に、船員の個々人が主体的に余暇活動に参加するといった傾向が小さいことをも意味している。

(3) 個性的な余暇活動が充実した休暇生活と対応すると仮定するならば、より有意義な休暇生活をエンジョイできるよう余暇活動に関する情報提供や余暇活動への参加の仕組みを政策レベルで検討する必要がある。

D 生活時間調査の総括と船員福祉

－休暇制度のちがいがから－

外航船員と内航船員、商船船員と漁船船員（石川県は大資本漁業会社の船員が多い）とのあいだには、休暇制度にちがいがあがる。そのちがいにによって、生活時間のちがいがあがるかどうかについてふれてみよう。中核6社船員（1都3県、阪神圏、内海圏）と内労協船員（大都市、中都市、郡部）とのあいだでは、休養的時間については内労協船員が週約4時間、家事的時間は中核6社船員が約4時間、余暇的時間については中核6社船員が約3時間、内職的時間は内労協船員が約3時間ほど多かった。それにしたがえば、中核6社船員は家事・余暇型、内労協船員は休養・内職型だといえる。さらに、細部について、もういちどたしかめると、つぎのようになる。

第8表にみるように、中核6社船員が内労協船員よりも多い時間（すくなくとも週約1時間）は、食事、身仕度、家事雑事、用たし、職業的工作、家庭内の雑談、新聞・雑誌、読書・学習、スポーツ、行楽・旅行、買物・外飲食時間である。それとは逆に、内労協船員が中核6社船員よりも多い時間は、すいみん、通院治療、内職

第 8 表 調査対象別生活時間（週）

（単位：時間，分）

	中核6社			内 労 協			石 川 県		
	内	外	計	内	外	計	内	外	計
生 理	78.21	3.37	81.57	78.49	3.47	83.36	80.49	2.42	83.30
す い み ん	58.13	2.39	60.52	60.31	1.49	62.20	61.40	.21	62.00
食事・身仕度	16.11		16.11	15.05		15.05	15.48		15.48
休息・ごろね	3.57		3.57	4.13		4.13	3.22		3.22
通院治療		.58	.58		1.58	1.58		2.21	2.21
家 事	12.10	2.48	14.47	10.29	1.50	12.18	10.45	1.40	12.26
子供の世話・相手	3.22	.19	3.31	3.08	.30	3.38	2.31	.31	3.02
家事雑事・用たし	5.07	2.05	7.12	3.47	.54	4.41	4.33	1.11	5.43
家屋の普請	3.41	.23	4.04	3.34	.26	4.00	3.42		3.42
仕 事	1.09	2.38	3.47	3.41	2.55	6.36	.21	9.04	9.25
職業的仕事		1.47	1.47		.55	.55		.10	.10
内職的仕事	1.09	.51	2.00	3.41	2.00	5.41	.21	8.55	9.15
交 際	2.03	6.48	8.51	2.54	6.11	9.05	3.42	9.35	13.16
他家への手伝い		.34	.34		.53	.53		2.31	2.31
個人的つきあい	1.52	5.08	7.00	2.38	4.52	7.30	3.32	5.33	9.04
社会的つきあい	.11	1.06	1.17	.16	.26	.42	.10	1.31	1.41
休養・教養	39.03	1.06	40.09	39.32	.18	39.50	39.24	1.01	40.30
家庭内の雑談	7.20		7.20	6.24		6.24	7.04		7.04
テレビ・ラジオ	22.51		22.51	25.21		25.21	25.43		25.43
新聞・雑誌	5.18		5.18	4.23		4.23	4.43		4.43
読書・学習	3.34	1.06	4.40	3.34	.18	3.42	2.01	1.01	3.02
趣味・娯楽	5.53	12.05	17.58	6.27	9.43	16.10	4.02	4.52	8.55
散 歩		.40	.40		.38	.38		.21	.21
見物・鑑賞		.23	.23		.19	.19		.10	.10
スポーツ		2.46	2.46		1.44	1.44		1.51	1.51
勝負ごと	.35	1.05	1.40	1.06	1.38	2.44	.51	.31	1.21
けいこ・趣味	1.10	.04	1.14	1.06	.04	1.10	.51	—	.51
日曜大工・庭いじり	3.39	.00	3.39	3.43	—	3.43	2.12	—	2.12
行楽・旅行		4.31	4.31		3.33	3.33		1.31	1.31
買物・外飲食		2.36	2.36		1.47	1.47		.31	.31
そ の 他	.29	.00	.29	.32		.32	.10	—	.10
不 明	.01	—	.01	.05	—	.05	.00	—	.00
合 計	138.49	29.10	168.00	143.06	24.53	168.00	139.07	28.54	168.00
正味家庭外時間		26.32			21.58			19.05	
総 数		307			207			63	

の仕事，テレビ・ラジオ，勝負ごとである。これら対比において，めだつた週差はすいみん約1時間30分，家事雑事・用たし3時間30分内職の仕事3時間40分，テレビ・ラジオ2時間30分である。

さらに，内職の仕事のない船員において，中核6社1都3県船員と内労協船員とのあいだでは，休養の時間について内労協船員が週約8時間，家事的時間については中核6社船員が約4時間，余暇の時間については中核6社船員が約2時間ほど多くなっている。そのあいだで決定的な差は，休養の時間にあらわれており，その細部についてみると，すいみん時間に約2時間，テレビ・ラジオ時間に約5時間のひらきとなる。こうした傾向は，内職の時間の少ない核家族型，さらに下船直後における調査時点前期においても，はっきりみられる。調査時点前期では，休

養の時間について内労協船員は中核6社船員よりも週約8時間多く，逆に余暇の時間は中核6社船員が内労協船員よりも約7時間も多いのである。

昭和48年の休暇制度は，第9表のとおりである。外航船員の場合，暦年での休暇日数は約63暦日と試算される。休暇制度を最大限に運用すれば，年間に，乗船約5カ月，休暇日数30余日の休暇を2回取得できるはずである。中核6社船員の平均乗船月数10カ月となっており，年1回・60余日の休暇を取得しているのが，現状である。内労協の船員の場合，暦年での休暇日数は51暦日となっており，その日数は2回以上で消化することになっている。年2回25日型と年1回50日型にわかれているのが，現状のようである。

こうした休暇制度とその取得の現状から，船

第9表 昭和48年度の休暇制度（暦年試算）⁽¹⁾

外 航 船 員		内 航 船 員	
乗船期間（年1回）	10カ月	乗 船 期 間	10カ月9日
有給休暇6カ月	13労働日		
" 4カ月×2日	8 "		
代償休暇10カ月×3日	30 "		
休暇中の休日（約）	12暦日	陸 上 休 暇	51暦日
	（63暦日）		
資格発生乗船期間	6カ月	休暇付与回数	2回以上
最大乗船期間タンカー専用船	12カ月	（回数）	（2回）（3回）
そ の 他	14カ月	休暇付与間隔	6カ月 4カ月
休暇の分割	1回かぎり	1回の付与日数基準	$\frac{1}{2}$ $\frac{1}{3}$
代償休暇の買上げ	$\frac{1}{4}$ 以内または	最低付与日数	17日 12日
	27日以上の方	休暇の買上げ	11日以内

(注) 1) 同年4月1日採用の新人船員の場合の試算である。

員の休暇の過ごし方をみると、外航船員と内航船員とのあいだにはちがいがあるとしなくてはならない。すなわち、比較的長期乗船し長期休暇をとる外航船員は、年1回というかぎられた機会に、休養的生活ばかりでなく、余暇的生活を積極的におこなうことになっていよう。いっぽう、内航船員でも年1回50日型は外航船員にちかい休暇の過ごし方になるだろうが、年2回～3回の短期乗船・短期休暇の年2回25日型、年3回17日型においては、休養的生活がいちおう前面にただざるをえなくなっており、余暇的生活についてはある機会にはまったくおこなわれず、ある機会には集中しておこっている

るかのようである。

一般的に、労働力の円満な再生産は、一定の長期の休暇生活も必要であるだろうが、一時的になりうるわけでなく、こきざみな休暇生活も必要となろう。しかし、船員の場合、その休暇生活を全面的に余暇的（創造的）生活だけですぐすわけにはいかないもので、休養的（回復的）生活に必要な日数をふまえ、しかも余暇的生活をおこないうる最低まとまり日数があるはずである。

こうした観点にたつて、船員の休暇生活をみると、外航船員はいまなお一時代まえの、1年乗船25労働日という休暇生活のあり方から

第10表 昭和49年度の休暇制度（暦年試算）

外 航 船 員		内 航 船 員	
乗船期間（年2回）	4カ月、5カ月	乗 船 期 間	9カ月20日
有給休暇4カ月	9労働日		
“ 5カ月	9+2労働日		
代償休暇（約）	48労働日(1)		
休暇中の休日（約）	25暦日 (93暦日)	陸 上 休 暇	70暦日
資格発生期間		休暇付与回数・内航	3回
乗船4カ月または勤務6カ月		近海	2回
最長乗船期間タンカー専用船	12カ月	休暇の付与間隔	6カ月 4カ月
そ の 他	14カ月	1回の付与日数基準	$\frac{1}{2}$ $\frac{1}{3}$
休暇の分割	1回かぎり	最低付与日数	25日 17日
最低付与日数	30暦日	休暇の買上げ	15日以内
代償休暇の買上げ	$\frac{1}{2}$		
代償休暇の事前付与(2)	10暦日以内		

注) (1) 航海・停泊比率を2:1として、年1回乗船の場合の代償休暇は、〔土曜日52日+国民の祝日・特定休日 $17 \times \frac{2}{3}$ 〕=64日である。9カ月乗船する場合、その代償休暇は $64 \times \frac{9}{12} = \text{約} 48$ 日と試算される。

(2) 有給休暇から有給休暇までの間の1回にかぎる

脱皮しておらず、改善されつつある休暇制度を、全面的には活用していないかのようである（なお、乗船月数をめぐる船員労務管理上の問題点を、ここで導入して議論しなければならないが）。また、内航船員については、年2～3回の休暇が保障されたものの、その就労実態（本資料第1～3編参照）や、休養の生活重点の休暇生活の現状からみて、1回あたりの休暇日数ははたして十分なのかどうか、さらには年間の休暇計画をどのようにたてられるべきかがとわれているだろう。

昭和49年度の休暇制度は、第10表にみるように「週休2日制」の導入によって、かなり改善されることとなった。外航船員においては、暦年での休暇日数は93暦日と試算され、すくなくとも5カ月乗船・52日休暇、4カ月乗船・41日休暇という年2回の休暇生活が現実的となった（運用上は、年3回もある）。また、内航船員においては、暦年での休暇日数は70日となり、年3回での付与となった。したがって、単純に言えば、98日乗船・23日休暇を、年3回取得できることとなる。こうした休暇利用制度は、船員の休暇取得方法にたいする期待にそっているようである。ただ、われわれが推察している最低まとまり日数（25～30日）からいえば、外航船員については年間3～

4回の休暇機会があってもよいし、内航船員については1回の単純な平均日数23日は、最低まとまり日数の下限にあり、最低付与日数17日はこれを下廻ることとなる。なお、内航船員については、船員の休暇付与時期およびその付与日数と、海運企業の休暇計画表すなわち船員配乗管理との調整も、一つの検討課題である。こうした現状の船員の休暇生活の現状からみたくつかの休暇制度の問題点も、すでに海運労使で予定された昭和50年度の休暇制度の改善、その後の見通しのなかでしだいに解決されていくこととなろう。したがって、今後の船員の休暇生活のあり方については、まず船員が年数回にわたり、かなり長い休暇日数のもとで、どのように休暇生活をおくるのかという、船員自身の主体性の問題がクローズアップされてきたといえる。そして日本国民一般がいまなお長期の休暇生活をおくれず、それにおうじて長期の休暇生活をうけとめうる社会環境がないとき、船員福祉活動はいかに展開されるべきかという問題が、はっきりとクローズアップされたといえる（なおこの場合船員の余暇費用や船員福祉事業費が可及的に増大するものだということを、前提としている）。

（篠原陽一、青木修次、服部 昭）